

I 実践

1 研究主題

「思いやりと感謝の気持ちを育てる人権教育の在り方」

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「夢をもち、心豊かで進んで学ぶ、たくましい児童の育成」である。それを受け、人権教育では「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」ことを目標としている。そこで、体験学習を中心として、様々な人と接する場を設定することで、児童に思いやりと感謝の気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 適切な人間関係づくり
- イ 人権教育の視点での学習活動
- ウ 人権意識をもてる学習環境

2 実践内容

他の教科部、学年部で行っている取り組みが人権教育の研究と重複する部分がある。そのため、人権部で行った取り組みとそれぞれの実践を併せてここに紹介する。

(1) 適切な人間関係づくり

- ・ 毎月のいじめアンケートの実施（生徒指導部）
- ・ Q-Uテストの実施（各学年）
- ・ 異学年集団の交流（体育部）

本校では、6年生をリーダーとして行う縦割り班活動「ハッピータイム」を設定している。高学年は低学年にも分かるように説明したり、遊んでいる最中に手加減をして楽しく遊べるようにしたり、思いやりをもって低学年と接する機会となっている。

- ・ あいさつ運動（生徒指導部）

2学期は登校班ごとのあいさつ運動を行い、登校班でも高学年が下級生をリードする機会とした。

(2) 人権教育の視点での学習活動づくり

- ・ 福祉体験学習（第5学年）

アイマスクをして白杖をついて歩く視覚障害者体験、手足におもり、目にはゴーグルをかけて歩いたり字を書いたりする高齢者体験、車椅子体験を行った。盲導犬ユーザーの佐藤さんをゲストティーチャーとして招き、盲導犬との生活についての講話をしていただいた。



佐藤さんと盲導犬「ラビ」



車椅子体験



視覚障害者体験



高齢者体験

- ・ いのちの教育（第4学年）

命のかけがえなさ、大切さ、素晴らしさを伝え、子どもたちの自他ともに大切にする心を育むとともに、親子の絆を深めることを目的とし、4年生児童と保護者参加のもと実施した。

- ・ 「人権メッセージ」「人権書道」への取り組み（人権部）

人権メッセージは中・高学年で取り組んだ。いじめを許さないという思い、命の大切さ、友だちや家族への感謝の気持ちなど、心のこもったメッセージを書くことができた。人権書道には5、6学年が取り組み、コンクールへ応募した。

(3) 人権意識をもてる学習環境

友だちに親切にできたら貯まるビー玉貯金箱の設置、友だちと楽しく学校生活を送るためのコミュニケーションスキルの掲示、友だちをちがった視点から見るスキルを伝える掲示など、人権意識が育つ学習環境作りを行う学級もあった。



3 成果

- (1) Q-U テストは、現在の学級集団の把握、個別に支援すべき児童への対応、児童の変容の把握に役立てることができた。いじめアンケートは、いじめの早期発見と早期対応に生かすことができた。これらの取り組みを通し、いじめを未然に防ぎ、不登校などの生徒指導上の問題を教師間で情報共有を図ることができた。高学年がリーダーとなる場の設定は、学校のリーダーとしての自覚を強め、下級生に対する思いやりの気持ちを育むことができた。
- (2) 様々な体験を通し、障害のある人や高齢者に対しての理解を図り、思いやりの気持ちを育むことができた。人の誕生のしくみや命の大切さを知り、自尊感情を高めることができた。人権メッセージや人権書道に取り組むことで、家族や友だち、地域の人に支えられていることのありがたさに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。
- (3)

II 今後の課題

- 1 今後も人権教育の視点での教育活動を継続して行う。
- 2 人権に関する興味・関心をもち、知識・理解が身につく人権コーナーの作成に取り組む。
- 3 教師が常に人権感覚を持って教育にあたるよう職員研修を充実させる。
- 4 家庭や地域と連携した啓発活動の推進をする。

III 人権コーナーの様子



「人権とは何か」をテーマにした掲示

人権メッセージの紹介